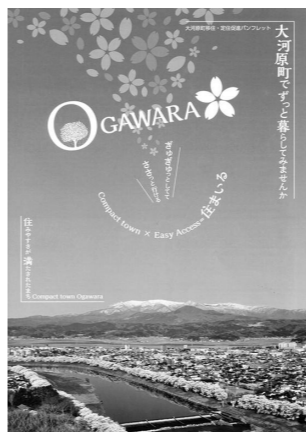


さくら並木

～ぎゅぎゅとしてて、ささっと行ける、ハートフルなまち～

大河原町長 齋 清志



町内にお住いの皆さんは、移住や定住を促すときに、本町の特徴をどのように説明されるでしょうか。「ぎゅぎゅとして、ささっと行ける、住みやすさが満たされたまち。」これは、若い世代の職員でつくるプロジェクトチームが作成した「大河原町移住・定住促進パンフレット（4月中旬全戸配布）」のキャッチコピーです。新鮮な感覚で、しかも本町の特徴が見事に表現されていると思いませんか。

このパンフレットは、快適な住環境、子育て・教育・自然環境・災害に強いまち、四季折々のイベント等について、暮らしやすさがぎゅぎゅとつまったコンパクトな町であること、さらには行きたいところにささっと行ける便利な町であることを紹介しています。また、公共施設、医療機関、買い物環境、子育て支援施設、交通機関、イベント会場

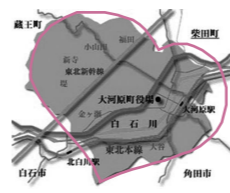
等がマップに写真入りで落とし込まれています。活字もスッキリしていて、表現も判りやすく、興味をわきそうなおもしろい回答えています。紙面づくりのセンスの良さにも感じ入った次第です。（少し褒め過ぎかも？）さて、表題ではそのキャッチコピーに「ハートフルなまち」を付け加えておりますが、これは私の政策スローガン、「認めあい、支えあい、活かしあう、一歩先行く元気なまち」にもあるように、これからの本町らしい地域づくりの在り方を言葉に表したものです。若い皆さんの移住・定住意識にはあまり結びつかないのかもしれませんが、これからの社会に求められる助けあいの仕組みづくりの基盤となるキーワードを「ハートフル」に決めました。

私たちの地域にあっても超高齢少子・核家族化が一層進み、認知症も増え続け、財政難が襲ってくるはず。1人の高齢者を支えるために、これまでは2・4人（20～64歳）の騎馬戦型だったのが、33年後には、1・2人（同）の肩車型になると予測されています。さらに高齢化率は40%を超え、団塊の世代が75歳になるころには4～5人に1人が認知症

と予測されているのです。専門性が必要な介護はしっかりと専門職・事業者が支え、日常の生活支援は、できるだけ住民やボランティアの主体的な助けあいが求められることとなるのです。これが新しい地域づくりの先取りとして「ハートフルなまち」を入れた本町の所以です。

国の目指す考え方に、「地域包括ケアシステム」の構築があります。この成功の鍵はまさに、認め合い、支えあい、活かしあうことに他ならないと思えてなりません。優しい思いや、高いボランティア意識などの町民性に磨きをかけながら、若い世代の皆さんにもご理解いただける10年先、いやもつと先を見据えた地域づくりの大切さを強くアピールすべきと考えています。

ところで改めて本町の地理的形状に目を向けると、ハートの形に見えると思いませんか。ぎゅぎゅとして、ささっと行ける、ハートフルなまち、何とも本町らしさに溢れた素晴らしいキャッチコピーではないでしょうか。（3月15日記）



駅前図書館今月の新刊 まちの本棚

一般
四季を愉しむ手しりて
小島 善和／著
【河出書房新社】
とておきのレシピやアイデアで、季節に寄り添う暮らしを…。季節のめぐりに合わせて毎年行ってきた果物仕事とそれらを使ったお菓子作り、草花を育て、愛でる楽しさを紹介します。

小説
出会いなおし
森 絵都／著
【文藝春秋】
出会い、別れ、再会し、また別れ……。人は会うたびに知らない顔を見せ、立体的になる。表題作をはじめ、「ママ」「むすびめ」など、人生の特別な瞬間を凝縮した珠玉の6編を収録。『オール讀物』掲載を書籍化。

児童
僕は上手にしゃべれない
椎野 直弥／著
【ポプラ社】
吃音の悩みをかかえ、中学に入学した悠太。入学式の日には、当然自己紹介があるというのはわかっていたが…。著者自身の経験をもとに、吃音に苦しむ少年の葛藤と希望を描いた胸を打つ物語。

絵本
がこついでとどきとききしる
アダム・レックス／文
クリスチャン・ロビンソン／絵
なががわ ちひろ／訳
【WAVE出版】
はじめての教室、はじめての先生、はじめてのクラスメイト。学校だてどきどきして、知っていた？ ぴかぴかの新しい学校といっしょに、どきどきして切なくなつて、笑える絵本。

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

桜ボランテニア

一目千本桜が、今年も美しく咲きました。大河原中学校では、毎年、「桜ボランテニア」を行っています。

学年ごとに「桜まつり」の会場に行き、「ゴミ拾い」を行います。全国各地からおいでいただいた皆さんに、気持ちよく美しい景色を楽しんでいただく



対面式

それぞれの学年の自覚を持って

4月12日、生徒会による対面式が行われました。生徒会役員の呼名に対して一人一人力強い返事をする新入生とときにユーモアを交えながら丁寧に中学校生活を説明していく2・3年生。それぞれ



の役割を果たしながら、式はあたたかな空気に包まれて進行していききました。

全校生徒105名でのスタートとなりました今年度も、金ヶ瀬中学校は「自主」「敬愛」「健康」を柱に、誇りと活力に満ちた学校を目指します。

暗唱大好き シリーズ⑬ 南小編



一日の始まりは、クラス全員気持ちそろった暗唱でスタートします。その後個人の練習になると「目を手でかくす」「何度も本を開いたり閉じたり」「頭を押さえて集中」など、自分に合った覚えかたを工夫して真剣に取り組んでいる様子が見られます。子どもたちにとって名文・名詩を暗唱することは、日本語の美しさを感じ取ったり、知識を得たりする上で大変価値があるものです。また、自信をもつことにもつながります。

以前は「暗唱できた子は先生のところへおいで」と言っていたのですが、この



頃は、休み時間や放課後に子どもから進んで「先生聞いてください」と言ってくるようになりました。子どもたちの生活のなかにすっかり浸透しているのが分かります。暗唱することのよさや意義を感じており、次々に新しい詩を覚えようとしています。

本校では、今年度も学年での取り組みの成果を発表する場として「暗唱朝会」を設定しています。暗唱を通して伝え合う力を高め、日本語の美しさやリズムといった言語感覚を磨き、豊かな情感や情緒、感受性をさらに伸ばしていきたいと思えます。

